

「過労死」テーマにシンポ 専門家や遺族 対策語る

「過労死・過労自殺を生み出さない社会を築くため」と題したシンポジウムが23日、京都市下京区のキヤンパスプラザ京都で行われた。府内の社会保険労務士らでつくるNPO法人「あったかサポート」が主催。約90人を前に、専門家や遺族がそれぞれの立場から対策を語った。

過労死・過労自殺をめぐっては、平成26年施行の過労死等防止対策推進法に基づき、政府は27年7月に大綱を閣議決定。過労死・過労自殺を将来的にゼロとするため、32年までに週60時間以上働く人の割合を5%以下とし、有給休暇の取得率を70%以上とするなどの数値目標を掲げた。

一方、改正労働安全衛生法では、過労自殺につながる

がるメンタル不調を予防するため、従業員50人以上の全事業所で産業医らによる「ストレスチェック」が昨年12月に義務化された。

ストレスチェックの制度設計に携わった近畿大の三柴文典教授（労働法）は、基調講演で「チェックリストに機械的に当てはめるだけでは根本的な対策になら

ない。企業側は洞察力をもった専門の人材を育成する必要がある」と指摘。「労働組合は、福祉の専門職らと日頃からネットワークを作るなど、人事・総務にできない対策をやってほしい」と話した。

夫を過労自殺で亡くした「全国過労死を考える家族の会」代表、寺西笑子さん（67）は「遺族をこれ以上生み出してはならないという思いで活動している」と強調。「一人一人が過労死は意識を変えていくことが必要だ」と訴えた。

2016年1月23日 NPO法人あったかサポート 新春交流会記念シンポジウム
「過労死・過労自殺を生み出さない社会を築く」
—始まったストレスチェック制度



過労死・過労自殺の防止について議論されたシンポジウム。京都市下京区



きょう告示

任期満了に伴う京都市長選（2月7日投票）は24日、告示される。3選を目指す現職、門川大作氏（65）
|| 自民、民主、公明、社民推薦 || に、新人で元市教組執行委員長の本田久美子氏（65）
|| 共産推薦、元府議の三上隆氏（85）の2氏が挑む公算が大きい。立候補の受け付けは午前8時半から午後5時まで、市役所（中京

区）で行われ、各陣営は、立候補を届け出た後、それぞれ第一声をあげる。

門川氏は、京都商工会議所の立石義雄会頭が会長の支援団体「未来の京都をつくる会」を中心に、推薦政党などと組織戦を展開。2期8年の実績を訴え、3選を狙う。

本田氏は、「安全保障関連法反対」を訴え、同法が成立した昨年9月に立候補表明。知名度不足を補おうと、市内全域を小まめに回り、中小企業支援や貧困家庭の救済などを訴える。

元府議の三上氏は「京都から平和を発信したい」と立候補表明。「京都を日本の首都にしよう」を軸に、高齢者対策や貧困児童対策、着物産業の復興などを